

2017年（平成29年） 6月16日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/1～6/7のNYMEX・WTIは45.72～48.36ドルの範囲で弱含みに推移した。

6月8日は、前日の米国の石油在庫積み増し報告による大幅値下がりを受けて、買い戻しの動きも目立つ中、ナイジェリア・リビアの原油生産回復の動きもあり、小幅続落した。7月限の終値は前日比0.08ドル安の45.64ドルだった。

週末9日は、週末を控えたポジション調整や安値拾いの買いに加え、ナイジェリアのパイプライン事故による不可抗力条項発動の報道もあり、反発した。ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が741基(前週比8基増、21週連続増加、2016年4月以来の高水準)との発表が上値を抑えた。7月限の終値は前日比0.19ドル高の45.83ドルだった。

週明け12日は、サウジ国営石油サウジアラムコの7月積みアジア向け出荷の削減方針・WTI先物の受け渡し点クッシングの原油在庫の取り崩しの報道等があり、続伸した。7月限の終値は前週末比0.25ドル高の46.08ドルだった。

13日は、夕刻と明日の米国官民在庫週報の原油・製品の取り崩し予想、サウジのアジア向けに続く米国向けの出荷削減見通しなどから、3営業日続伸した。この日のOPEC週報で5か月連続生産上限を順守したものの、5月の加盟国生産量が前月比1.1%増加したことが上値を抑えた。7月限の終値は前日比0.38ドル高の46.46ドルだった。

14日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報結果に対する失望売りで、4営業日振りに大幅反落した。7月限の終値は前日比1.73ドル安の44.73ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週48.10～49.90ドルで弱含みで推移し、50ドル

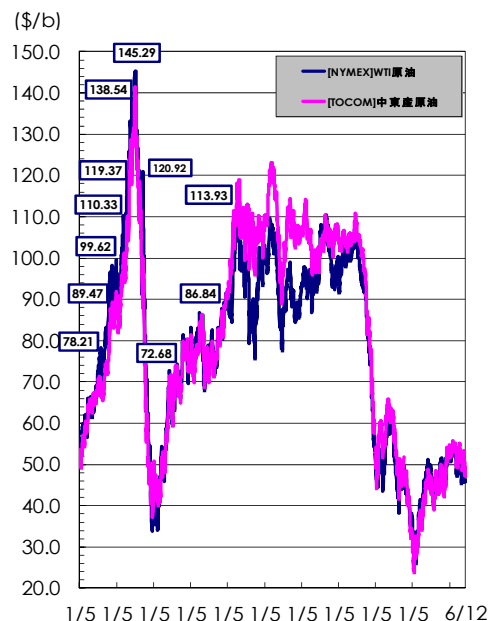
を割り込んだ。6月8日は47.20ドル、9日は46.60ドル、12日は47.20ドル、13日は47.30ドル、14日は47.00ドルで推移した。

為替は、前週110.53～111.63円の範囲でやや円高に推移した。6月8日は109.99円、9日は110.08、12日は110.23円、13日は110.02円、14日は110.06円で推移した。

主要元売会社の6月第3週に適用する卸価格は、ガソリン・中間留分ともに1.0円と1.5円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、6月12日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がりの131.6円、軽油は0.2円値下がりの110.6円、灯油は0.1円値下がりの76.7円だった。ガソリン、軽油は2週振りの値下がり、灯油は8週連続の値下がりとなった。この週(6月第2週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は1.0円の値下げから1.5円の値上げに分かれた。

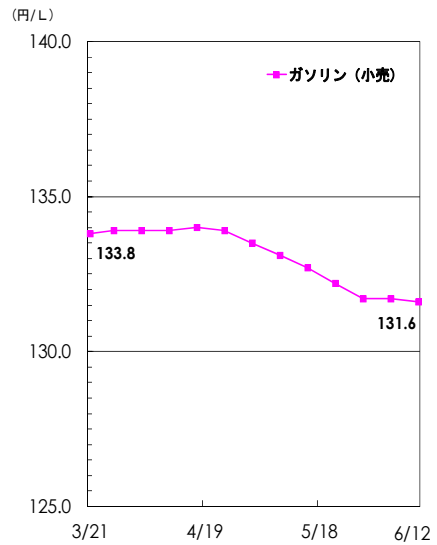
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/4 ~ 6/10	3,133 ▲73	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.0 ▲1.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/10	14,133 ▲412	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/12	47.47 ▼-1.99	▲1.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/12	46.08 ▼-1.32	▼-2.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	54.07 ▼-0.12	▲13.39
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	37,902 ▲538	▲10,028
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.44 ▼-1.83	▼-2.52
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/12	111.23 ▲0.26	▼-3.77



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/4 ~ 6/10	945 ▼ -174	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	905 ▼ -29	▼ -	
	輸出	"	40 ▼ -57	▲ -	
	在庫	6/10	1,984 ➡ 0	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/6 ~ 6/12	49.0 ▼ -0.7	▲ 3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/6 ~ 6/12	47.5 ▼ -2.3	▲ 1.7
		(TOCOM/中部)	6/12	46.6 ▼ -1.7	▲ 2.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/12	131.6 ▼ -0.1	▲ 8.0	

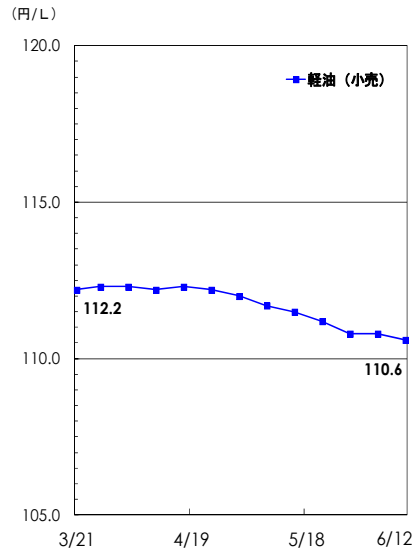
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

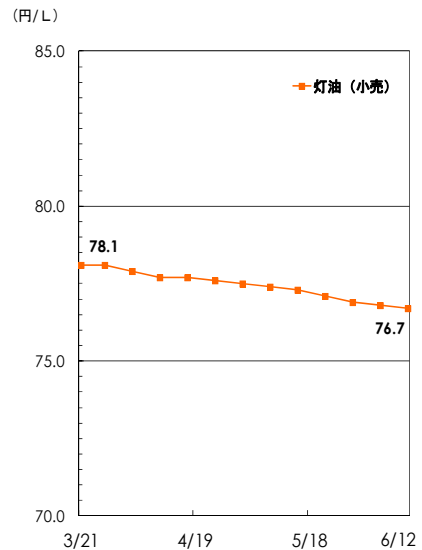
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/4 ~ 6/10	643 ▼ -93	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	585 ▲ 35	▲ -	
	輸出	"	206 ▲ 17	▲ -	
	在庫	6/10	1,429 ▼ -149	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/6 ~ 6/12	47.6 ▼ -0.8	▲ 5.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/6 ~ 6/12	48.0 ➡ 0.0	▲ 6.1
		(TOCOM/中部)	6/12	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/12	110.6 ▼ -0.2	▲ 7.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/4 ~ 6/10	120 ▼ -45	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	53 ▼ -77	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/10	1,416 ▲ 66	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/6 ~ 6/12	46.5 ▼ -1.0	▲ 5.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/6 ~ 6/12	43.9 ▼ -1.7	▲ 2.1
		(TOCOM/中部)	6/12	44.0 ▼ -1.5	▲ 3.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/12	76.7 ▼ -0.1	▲ 12.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月14日のNYMEX市場WTI原油は、前日の米国石油協会(RPI)の予想に反した在庫増加(前週比280万バレル増)による売りに加え、この日の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、最新週の原油在庫が前週比170万バレル減少と市場予想(同270万バレル減)より小幅にとどまったこと、ガソリン在庫もドライブシーズン到来にもかかわらず市場予想(同50万バレル減)に反して同210万バレル増加したことから、4営業日振りに大幅反落、45ドルの水準を割り、昨年11月14日以来7カ月振りの安値を付けた。この日の米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げ発表には大きく反応し

なかった模様。7月限の終値は前日比1.73ドル安の44.73ドル、8月限の終値は前日比1.74ドル安の44.93ドルだった。

EIAによると、6月12日時点のガソリンの小売価格は前週比4.8セント値下がりの1ガロン2.366ドル(69.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比4.0セント値下がりの2.524ドル(74.1円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月4日～6月10日に休止したトッパー能力は52.3万バレル/日で、前週に対して9.7万バレル/日の減少(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は313.3万klと、前週に比べ7.3万kl増加。前年に対しては16.9万klの減少。トッパー稼働率は80.0%と前週に対して1.9ポイントの増加、前年に対しては2.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/15.6%減、ジェット/2.0%減、灯油/27.3%減、軽油/12.6%減、A重油/14.0%増、C重油/6.9%減。今週のC重油の輸入は6.8万kl(前週比1.5万kl減)。軽油の輸出は20.6万kl(前週比1.7万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比でもジェット、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は90.5万kl(対前週3.1%減)と2週連続で前週比で減少、3週連続で前年比で減少となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット16.9万kl(対前週95.5%増)、灯油5.3万kl(対前週58.9%減)、軽油58.5万kl(対前週6.5%増)、

A重油20.2万kl(対前週18.9%増)、C重油16.8万kl(対前週9.6%減)。

(単位:千KL)

	今週 (6/4 ~ 6/10)	前週 (5/28 ~ 6/3)	前週比
ガソリン	905	934	▼ -29 (-3%)
ジェット燃料	169	86	▲ 83 (97%)
灯油	53	130	▼ -77 (-59%)
軽油	585	550	▲ 35 (6%)
A重油	202	170	▲ 32 (19%)
C重油	168	186	▼ -18 (-10%)
合計	2,082	2,056	▲ 26 (1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月10日時点の在庫は、軽油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、ジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは198.4万kl、前週差±0.0万kl。前年に対しては12.4万kl多い。

灯油は141.6万kl、前週差6.6万kl増。前年に対しては25.9万kl少ない。

軽油は142.9万kl、前週差14.9万kl減。前年に対しては6.9万kl少ない。

A重油は81.2万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては0.6万kl少ない。

C重油は212.5万kl、前週差4.9万kl増。前年に対しては11.4万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (6/10)	前週 (6/3)	前週比
ガソリン	1,984	1,984	▶ 0 (0%)
ジェット燃料	1,061	1,017	▲ 44 (4%)
灯油	1,416	1,350	▲ 66 (5%)
軽油	1,429	1,578	▼ -149 (-9%)
A重油	812	817	▼ -5 (-1%)
C重油	2,125	2,076	▲ 49 (2%)
合計	8,827	8,822	▲ 5 (0.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月6日から12日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートは円高で、原油コストは値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン102～103円台でやや軟化、軽油47～48円台でやや軟化、灯油46～47円台で軟化し推移した。海上スポット価格は、ガソリン104～105円台でやや軟化、軽油47～48円台で軟化、灯油43～44円台でほぼ横ばいで推移した。先物価格は、ガソリン100～101円台でやや軟化、軽油48円台で横ばい、灯油43～44円台でほぼ横ばいで推移した。元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、1.0円と1.5円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストはやや値上がりし、製品スポット市況は、陸上の全油種と海上のガソリン・灯油が値下がりし、海上と先物の軽油が横ばいと、全体として値下がりした。週間のガソリン販売量は、2週連続で減少し、2週連続の100万kl割れとなった。

6月第2週(6月15日～21日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月6日～6月12日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.7円の値下がり、軽油は0.8円の値下がり、灯油は1.0円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、軽油は横ばい、灯油は1.5円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが2.3円の値下がり、軽油が横ばい、灯油は1.7円の値下がりだった。原油価格は値下がりし、為替もやや円高で、原油コストは値下がりとなった。

6月第3週の大手元売の卸価格は、1.0円と1.5円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (6/6～6/12)	前週 (5/30～6/5)	前週比
スポット価格	レギュラー	49.0	49.7	▼ -0.7
	灯油	46.5	47.5	▼ -1.0
	軽油	47.6	48.4	▼ -0.8
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (6/6～6/12)	前週 (5/30～6/5)	前週比
先物価格	レギュラー	47.5	49.8	▼ -2.3
	灯油	43.9	45.6	▼ -1.7
	軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/6～6/12実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.7	▼ -2.3	▼ -1.5	
灯油	▼ -1.0	▼ -1.7	▼ -1.4	
軽油	▼ -0.8	▶ 0.0	▼ -0.4	
A重油	▼ -0.7			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下がりの131.6円、軽油も前週比0.2円値下がりの110.6円、灯油は前週比0.1円値下がりの76.7円だった。ガソリン、軽油は2週振りの値下がり、灯油は8週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは19都道府県、横ばいは1県、値下がり27府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、徳島県の126.0円(前週比0.9円安)、次が岡山県の126.6円(同0.7円高)だった。最高値は沖縄県の140.0円(同0.6円高)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.7円高の岡山県(126.6円)、最も値下がりした県は同3.6円安の滋賀県(129.7円)、横ばいが鹿

児島県(139.2円)だった。

原油コストは値下がりし、元売りの卸価格も1.0円の値下げと1.5円の値上げに分かれ、2週振りでガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートも円高となって、原油コストは値下がりした。元売会社の卸価格は、1.0円と1.5円の値下げに分かれた。次週(6月19日)のガソリンの小売価格は、値下がりが見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
	今週 (6/12)	前週 (6/5)	前週比			
小売価格	レギュラー	131.6	131.7	▼ -0.1	08/8/4	185.1
	灯油	76.7	76.8	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	110.6	110.8	▼ -0.2	08/8/4	167.4

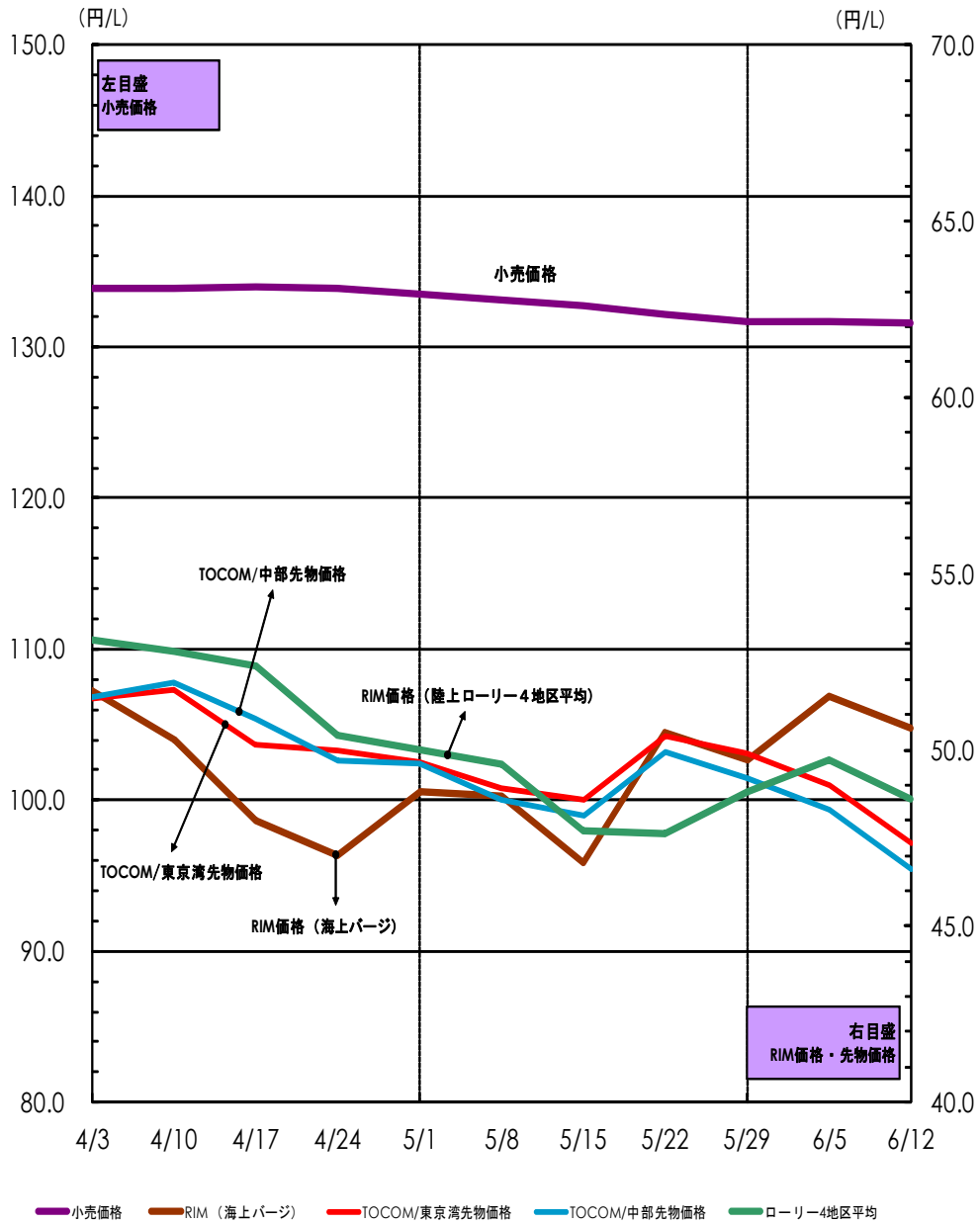
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/4/3 ~ 2017/6/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
 次回(2017第11号)の公表は、6/23(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
 当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
 また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
 当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
 「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
 中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
 中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
 原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
 TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。